

「正明寺納骨堂」を設置しました。

詳しくはお寺までお問い合わせ下さい。

「正明寺ホームページ」を開設しました。スマホでも簡単に見られます。またご覧になってください。

お念仏とともに

東井義雄先生の生涯 (6)



昭和二十二年、先生の故郷の相田小学校に転勤しました。そこで十四年間いました。前半は、戦争の責任感から沈黙を守っていましたが、後半、学校通信や「村を育てる学力」を書かれたりして、生き生きとした活動を始めました。

「村を育てる学力」にはこんなことが書かれていました。谷間の小さな貧しい村で、子どもたちをど真ん中にすえ、農民の生き方そのものを問い直していく実践記録でした。貧しさのために、心まで貧しくなっていく子どもたち。四十四歳のとき、「村を育てる学力」をつけ、こんな貧しい暮らしは俺だけでたくさん、と思っっている大人たちにも何とか生きがいを与え、自らも敗戦から立ち直るために必死の実践活動を始めた。

そんな東井先生の実践教育が認められ、昭和三十四年、

教育界のノーベル賞といわれる「ペスタロッチ賞」を受賞されました。それまで、大学の学長や学問に貢献した学者がもらう者であったこの賞を受賞されてからは、人々は「日本のペスタロッチ」と呼ばれるようになりました。その後、先生は子どもたちの作文に力を注ぎました。日本の作文教育の先駆者、小砂丘忠先生をお訪ねしてまで学ばれました。その後、その小砂先生の名の「小砂丘忠賞」を受賞されました。

その後、小学校、中学校の校長先生を歴任されました。昭和四十二年に「通信簿の改造—教育の実践的展開」を書かれました。五段階評価で子どもたちの心を傷つけていると感じていたからです。

「一番より尊いビリだつてある」「どの子どももは星」一人一人の子どもの中に必ずある輝き、それを輝かそう、そして、天にいつぱいの星を輝かさそう、と思われました。その後定年退職するまでに、兵庫県から「教育功労賞」、文部省から「教育功労賞」も受けられました。

昭和四十四年、NHKラジオ「人生読本」にも出演。定年退職後には、兵庫教育大学の講師などもされていましたが、その後、全国講演の歩みを続けられました。